

1 研究主題

輝け命！自他を大切にできる子の育成

ー 小牧市「生と性のカリキュラム」の取組を通して ー

2 はじめに

小牧市では、平成16年度より小牧市母子保健推進協議会と連携し「生と性のカリキュラム」（以下カリキュラムとする）の作成に取り組んだ。平成19年度から「生」（人間らしくいきいきと共に生きる心）と「性」（健やかな体と命の大切さ）を学ぶことで「心豊かにいきいきと生きる力をもつ子の育成」を目指し、市内の小中学校で推進された。その後、子どもたちの実態や環境の変化を受けて改訂し、現在のカリキュラムは平成27年度から実践されている。

しかし、近年の情報化やグローバル化、コロナ禍の影響など、急激な社会環境の変化は、子どもたちの心身の健康に大きな影響を与え、メディアへの依存やそれに伴う生活習慣の乱れを引き起こしている。また、性に関する情報の氾濫や多様性に関する問題など、現行のカリキュラムの中に、子どもたちの実態や環境にそぐわない面があるという意見が出てきた。

そこで、根幹である発達段階に応じた系統的な指導はそのままに、今の時代に合った指導内容の見直しが必要だと考え、まずは、課題解決に向けた検討会や研修会を通して、養護教諭同士が連携を深め、互いに学び合うことにした。養護教諭同士の連携を深め、心豊かに自他を大切にできる児童生徒の育成を目指し、誰もが取り組みやすいカリキュラムの改訂につなげていきたい。

3 研究経過

(1) 研究の仮説

養護教諭が「生と性のカリキュラム」の指導内容の見直しや教材の整備を通して、互いに学び合うことで、カリキュラムがより実践しやすいものになるであろう。

(2) 研究計画

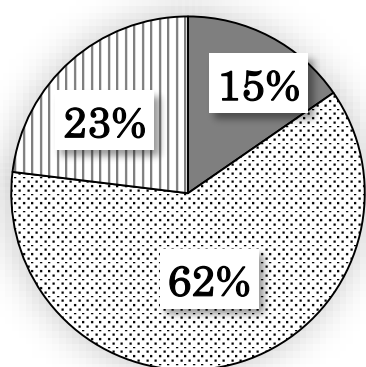
令和 4年度	・実施状況調査及び意見集約 ・指導案検討と検証 ・教材整備	養護教諭同士の学び合いを深めることで、より実践しやすいカリキュラムの改訂を目指す。
令和 5年度	・指導案検討と検証 ・教材整備	授業研究を通して、児童生徒の自他を大切に心豊かに生きる力を育む。
令和 6年度	・実践の評価とまとめ ・尾教研口頭発表	

4 研究の概要

(1) 「生と性のカリキュラム」に対する養護教諭の意識について

市内の養護教諭を対象としたアンケートでは、「カリキュラムの実施に対して不安や困り感があるか」という質問に対して、約8割の養護教諭が不安や困り感があると答えた（図1）。経験年数の少なさによるものだけでなく、指導内容についての不安や困り感があることが分かった。そこで、指導案や教材・教具の見直しの方向性を「児童生徒の実態を捉え直し、今の時代に合った指導内容に見直す。また、教材・教具を児童生徒にとってより身近で親しみがわくものに工夫する」こととした。

（図1）カリキュラム実施に対して不安や困り感があるか



■とてもある
▨少しある
□あまりない

(N=26)

【具体的な不安や困り感】

- ・内容が子どもの実態や時代にそぐわないものもあり、最新の情報に変更して指導することに難しさを感じる。
- ・ネットモラルに関する内容は、命や健康と結びつきにくく、どのように授業を組み立てていくとよいか迷いがある。
- ・多様な性の理解や受け容れ、自他を大切にすることを、どのように指導するとよいか不安がある。

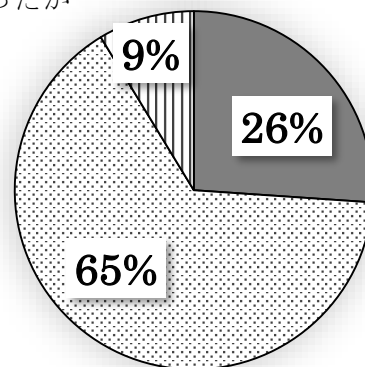
(2) 学習会「青少年のネット安全・安心講座～みんなのネットモラル塾～」の実施（令和4年9月）

講師（スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社）を招いた学習会では、子どもたちのインターネットでのトラブルや被害の実態を知ることができた。メッセージアプリの事例からは、自己肯定感の低さが一因となり「この人なら分かってくれる」と容易に信じ込み、誘い出しの被害に遭ってしまっていたことが分かった。また、子ども同士のメッセージのやり取りでは、お互いの都合を伝え合う過程で起こってしまうトラブルの事例を知り、今後の指導に活用できるヒントを得ることができた。

学習会後の振り返りでは、「学習会前と比べて理解が深まったか」という質問に対して、約9割の養護教諭が「大変理解が深まった・ある程度深まった」と答えた（図2）。



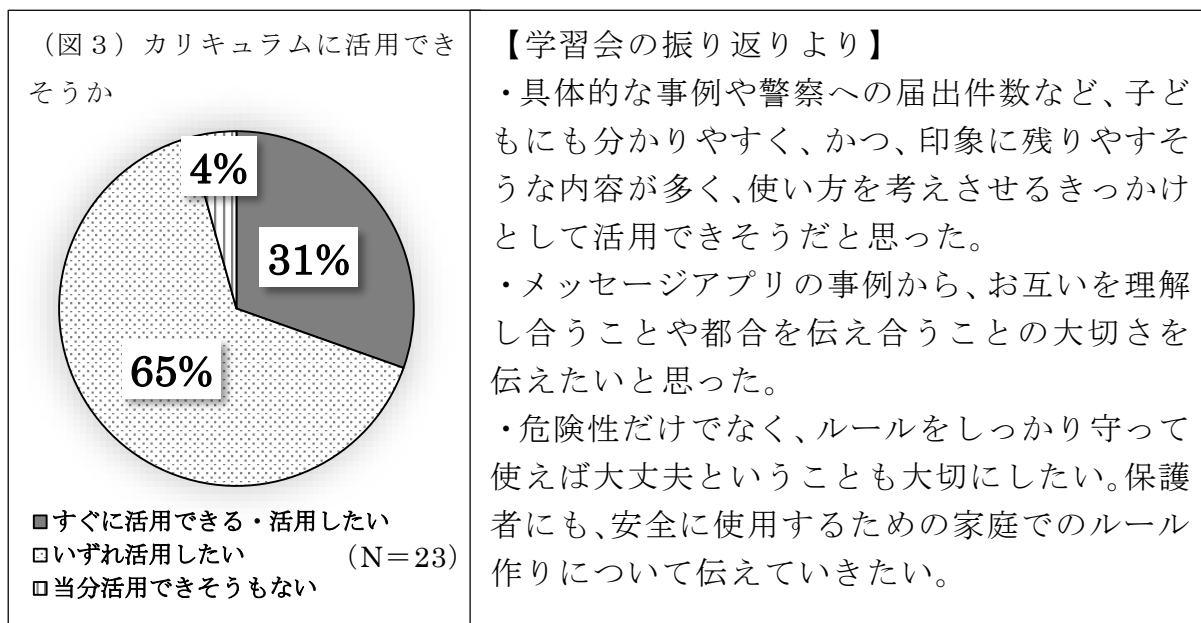
（図2）学習会前と比べて理解が深まったか



■大変理解が深まった
▨ある程度理解が深まった
□あまり理解が深まらなかった (N=23)

しかし、「学んだことをカリキュラムの指導に活用できそうか」という質問に対しては、「すぐに活用できる・活用したい」と答えた割合は約3割という結果であった（図3）。これからも理解を深めながら、具体的にどのように指導に活用していくとよいか、検討を進めていきたい。

また、今後ますますネット社会との共存が求められる。危険性だけでなく、安全に使用するための家庭でのルール作りについても伝えていく必要がある。そして、家族や学校など、子どもたちの周りには相談できる大人の存在があることを知らせ、子どもたちの自己肯定感を育むことにも努めたい。



（3）グループごとの意見交流と指導内容の見直しについて

小中学校間の連携も図りながら、6つのグループを作った。グループ活動では、児童生徒の実態を捉え直し、今の時代に合うように指導内容の見直しを行った。現在各校で実施している指導内容や指導する上で困っていることなどを話し合った。そして、各学年のねらい、指導の力点を見直した。また、各校で使用している教材・教具を持ち寄り、児童生徒にとって、より身近で親しみやすいものになるよう改善を進めている。養護教諭同士が互いに学び合い、連携を深めることで、よりよいカリキュラムの改訂を図っている。ここでは、3つの主題を例に、グループ活動の状況について述べる。

ア 小学校2年生（生）「わたしの大切ないのち」

本単元では、養護教諭が実施した授業を動画で撮影し、授業の様子や、ワークシートの記述を振り返りながら、教材・教具の見直しを中心に取り組んでいる。使用する紙芝居の絵やセリフを、より内容が伝わりやすくなるように工夫したり、要点が押さえられるよう、児童の発達段階に合わせ、ワークシートを見直したりした。

また、指導内容の見直しも行っている。「生命の安全教育」のねらいを達成し、系統的な指導が行えるよう、他学年の単元とのつながりも意識している。本単元は、1年生で実施しているセルフディフェンス講座との関係が深いため、講座の内容と関連付け、性被害や誘拐から心身を守

る方法を理解し、対処方法を身に付けられるようなカリキュラムになるよう、検討中である。

イ 小学校3年生（生）「メディアとのつきあい方を考えよう」

以前は子どもたちにとって、テレビやゲーム機が主なメディアであったが、現在はスマートフォンやパソコン、タブレット端末などさまざまなメディアに接する機会がある。さらに、子どもたちのメディア利用の実態から「長時間利用すること」と「就寝前に利用すること」に注目し、生活習慣にどのように影響するか考えた。

指導内容については、子どもたちが「メディアと接する時間」や「睡眠時間」を中心に自分の生活習慣を振り返る機会を設定できるよう検討中である。今後も各自で実践した教材やワークシートを持ち寄り、グループ内で話し合いを深めながら、指導内容を見直していきたい。

ウ 中学校1年生（性）「自分らしさって何だろう」

各校のこれまでの指導から、「特別なことや人と違うことが個性ではない」ということを指導する必要を感じた。また、「個性がない、よいところがない」と考える生徒に「よいところも嫌なところも含めて自分である」という認識をもたせたいと考えた。それらを踏まえ、指導の力点を次のように見直した（下線部分）。

「心やからだの変化・悩みについて共有化させるために、悩みの解決方法を小グループで話し合わせる。また、一人一人違うことが個性であり、個性を伸ばしていくことの大切さに気付かせたい」

⇒「(略) また、人は一人一人違っており、よいところも嫌なところも含めて自分を認めることの大切さに気付かせたい」

5 今後の課題

今年度は、カリキュラムの実践にあたり養護教諭が日頃感じている不安や困り感の解消を目指して、指導案の見直しに着手した。互いに不安や困り感を共有しながら、課題解決に向けた検討会や研修会を行うことで、養護教諭同士の学び合いを深めることができた。今後は、検討した指導案の検証を行い、カリキュラムをより実践しやすいものへと改訂していきたい。担任も養護教諭も指導しやすいカリキュラムを目指し、教材・資料作りをすることで、「心豊かに自他を大切にできる児童生徒の育成」につながるだろう。このカリキュラムは、からだや心、命がテーマとなっているため、使用する言葉一つからよく吟味して、よりよいカリキュラムを目指していきたい。